

# 経済・金融 フラッシュ

## 企業物価指数(2013年3月) ～8ヶ月ぶりに前年比で下落幅が拡大

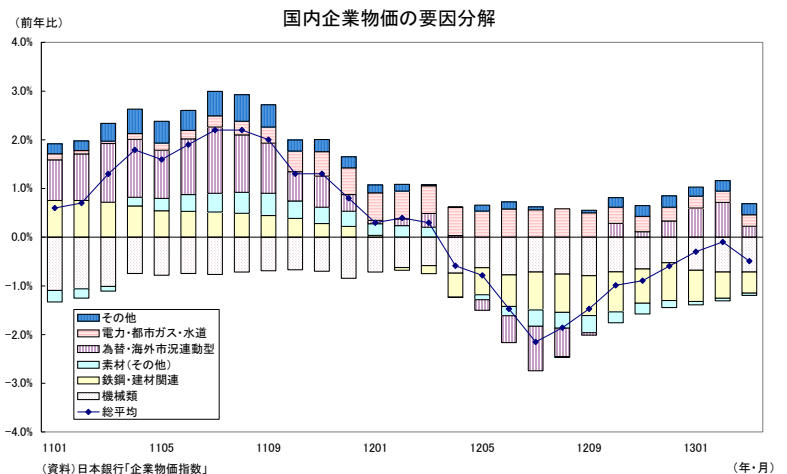
経済調査部門 研究員 押久保 直也

TEL:03-3512-1838 E-mail: oshikubo@nli-research.co.jp

### 1. 企業物価指数は前月比で4ヶ月連続の上昇

4月11日に日本銀行から発表された企業物価指数によると、2013年3月の国内企業物価は前年比▲0.5%と12ヶ月連続で下落し、2月の同▲0.1%から下落幅が拡大した。しかし、対前月比では0.1%と4ヶ月連続で上昇した。

3月の国内企業物価（前年比）を寄与度別に見てみると<sup>1</sup>、機械類が前年比▲0.7%（2月：前年比▲0.7%）、鉄鋼・建材関連が前年比▲0.4%（2月：前年比▲0.5%）、素材（その他）が前年比0.0%（2月：前年比▲0.1%）、為替・海外市況連動型が前年比0.2%（2月：前年比0.7%）、電力・都市ガス・水道が前年比0.2%（2月：前年比0.2%）、その他が前年比0.2%（2月：前年比0.2%）となっている。



国内企業物価（前年比）の下落幅が大幅に拡大した要因としては、為替・海外市況連動型の寄与度が6ヶ月連続のプラスとなったものの、プラス幅が大幅に縮小したことがある。円安の進行に伴い輸入物価が大幅に上昇していることで、指数の水準自体は2月よりも更には高くなっているものの、国際商品市況の上昇に伴い2012年3月の水準が高かったため、前年比での寄与度が2月よりも大幅に低下した。

今後は①海外経済が回復していくことで、国際商品市況も上昇していくことが見込まれること、②貿易赤字の恒常化、安倍政権による更なる金融緩和への期待感などから円安基調が続くとみられること、から国内企業物価は前月比で上昇が続き、夏頃までには前年比でもプラスに転じるだろう。

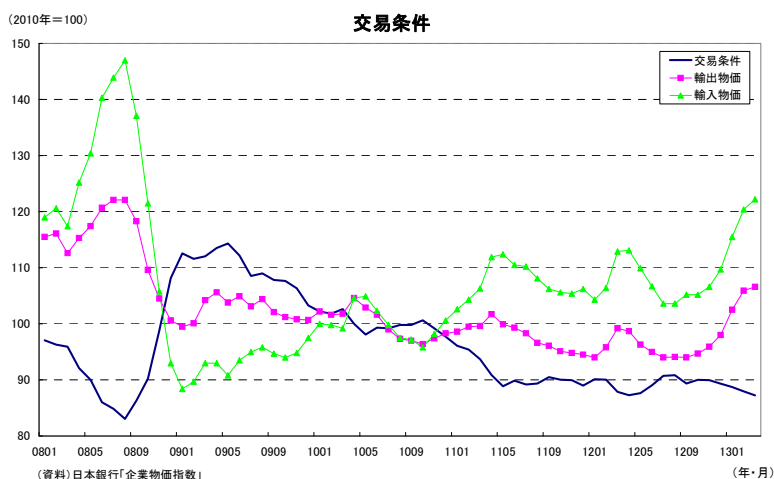
<sup>1</sup> 機械類：はん用機器、生産用機器、業務用機器、電子部品・デバイス、電気機器、情報通信機器、輸送用機器  
鉄鋼・建材関連：鉄鋼、金属製品、窯業・土石製品、製材・木製品、スクラップ類  
素材（その他）：化学製品、プラスチック製品、繊維製品、パルプ・紙・同製品  
為替・海外市況連動型：石油・石炭製品、非鉄金属  
その他：食料品・飲料・たばこ・飼料、その他工業製品、農林水産物、鉱産物

## 2. 交易条件は4ヶ月連続で悪化

3月の輸出物価は前年比7.5%、前月比0.7%となり、輸入物価は前年比8.2%、前月比1.5%となった。一方、契約通貨ベースでは、輸出物価は前年比▲1.6%、前月比▲0.2%となり、輸入物価は前年比▲2.5%、前月比0.3%となった。輸出物価、輸入物価ともに契約通貨ベースでは前年比で下落しているものの、円ベースでは前年比で大幅な上昇となっている。これは安倍政権による金融緩和強化期待に伴い、円安が進展していることが大きな要因である。

日本の貿易取引は、外貨建ての割合は輸出が61.6%、輸入が77.1%（2012年下期実績）となっているため、円安に伴う物価上昇幅は輸入のほうが大きくなっている。その結果、3月の交易条件（輸出物価／輸入物価×100）は87.2となり、4ヶ月連続で悪化した。

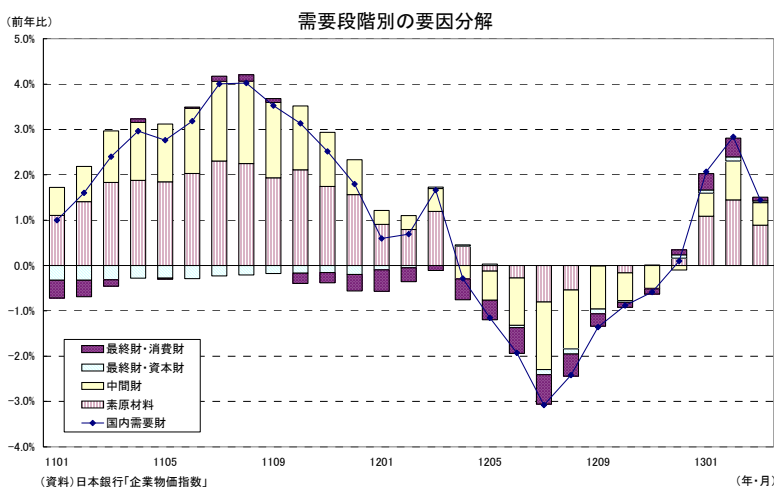
今後は、貿易赤字の定着、アベノミクスによる金融緩和強化などから円安基調が続くとみられることから、交易条件がさらに悪化していくことが見込まれる。



## 3. 消費財は8ヶ月連続で上昇

2013年3月の国内需要財の物価は前年比1.4%（2月：前年比2.8%）となった。その内訳を需要段階別・用途別にみると、素原材料が前年比7.4%（2月：前年比12.6%）、中間財が前年比1.0%（2月：前年比1.7%）、最終財・資本財が前年比0.4%（2月：前年比0.9%）、最終財・消費財が前年比0.3%（2月：前年比1.5%）となった。いずれの項目においても、前年比では上昇幅が前月よりも縮小しているが、水準自体は前月よりも上昇した。企業間の取引では、素原材料、中間財のみならず最終財にまで物価上昇が波及している。

足元の消費者物価は下落基調が続いているものの、川上から川下への価格転嫁が徐々に進むことで、消費者物価も上昇に転じることが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。